

3 月号
VOL. 507

土會奈良

593



SHIKAI
2019 NARA

表紙の人

森のオーベルジュ 星咲～きらら～

代 表 芝田秀人

副 代 表 吉村委久

請 負 者 恵工房 杉下徳蔵

設計技師 むくぴ 久保 稔

代表の芝田秀人は会員制ホテルや街場のレストランでサ
ービスマンとして、またソムリエとして約15年間勤め、な
ら食と農の魅力創造国際大学校（N A F I C：フードクリ
エイティブ学科）でフランス料理を中心に農業やマネーシ
メントを2年間学び、第1期生として首席で卒業。その傍
ら、一般社団法人日本ソムリエ協会奈良支部長を現在も務
めている。

副代表の吉村委久は大学時代の海外旅行をきっかけに自
身で宿泊施設と接客業を通じてお客様を笑顔にしたい夢を
持つ。大学卒業後、海外留学、パン屋での修行、奈良の伝
統野菜を売りにしたレストランで副店長、系列店では店長
を務める。

二人の経験を活かし、ワインと地元の特産品や食材を活
かした料理、観光案内を通じて曾爾村の魅力を多くの人に
伝え、地域の活性化、地方創生に繋がりたいとの思いから1
日1組の宿を平成31年4月下旬に開業予定。

静かでゆったりと流れる時間、高台に位置した清々しい
空気感の中、いつ来ても色んなワイン、色んな料理。アッ
トホームな大人の雰囲気漂う内装で、ワイン初心者の方も、
ワイン愛好家の方も楽しんで頂ける大人の隠れ家的な宿。
フランス料理をベースに地元の食材を使った料理を提供す
るとともに料理にあったワインやお客様のお好みに合わせ
た最高の一杯を提供する。代表である芝田のソムリエ協会
のネットワークを活かし入手しにくいワインを取り扱い、
リーズナブルに提供する。

宿泊事業については、1日限定1組のお客様に対して、
最高の料理や飲料を提供。観光案内なども含めて、1日1
組のお客様だからこそできる料理やサービスを追求し、お
客様の要望に出来る限り親身に対応するオーダーメイドの
パーソナルサービスを提供。曾爾村でしか体験できない最
高のおもてなしをお客様に提供する。

掲載宿住所：〒633-1213

奈良県宇陀郡曾爾村小長尾658-1

連 絡 先：090-8657-7379

（記・桜井まちづくり(株) 山本）

情報・広報委員会

委 員 長 松尾 憲治

副委員長 折目 貴司 大倉 克之

委 員 乾井 哲 福本 保治

水守 寛敏 松田 七彦

洞 尚樹 松村 泰徳

小松原寛俊 森 茂雄

福田 成生 押部 誠

Contents

001

収益改善検討特別委員会から報告

002

教育・事業委員会
景観デザイン賞部会

奈良県景観デザイン賞2018

受賞作品決定

004

国立大学法人奈良女子大学

第9回 木材と住環境

006

郡山支部

歴史的建造物を活かした

まちづくり2019

008

青年委員会／総務・企画委員会

建築士試験合格祝賀会／

平成31年新年大交歓会

009

お知らせ

ホームページ・ヘッドライン 他



収益改善検討特別委員会から報告

社団法人奈良県建築士会は先の独立行政法人等の改革により平成25年度に一般社団法人奈良県建築士会と名称を変更し現在に至っておりますが、新社団法人に移行する際、整備法では公益目的財産額を零にすることが定められています。

本会では当時この額が約8千4百万円在ることから10年で零にするため各事業年度の公益目的支出額の支出計画をしています、平成25年度を初年度として、平成29年度末では公益目的財産残額約3千9百万円となりました。

5年後の2022年度では零達成は可能となりますが建築士会が行っている様々な活動や事業は活発にこれからも行なわなければならない。

公益目的財産額が零に近づく頃には継続事業として取り止める事の出来ない目的の事業も多々あるのではないかと考えられます。しかし本会は事業も多く参加者に負担頂いた事業であっても全てではないゆえ収益も少なくここ10年赤字体質から脱却できていません。

平成29年6月正副会長会議で前会長の淵上会長から収益改善への取り組みを行っていくことの表明があり理事の中から総務、教育、情報、女性、の各委員長及び各支部長の合同会議により副会長2名、委員会代表は、総務、教育事業、住まいまちづくり、女性、青年、支部長会から5名程度での収益改善特別委員会を設置することになりました。

第1回特別委員会が9月28日開催され紀本委員長のもと6月22日に各委員から今後の改善検討項目として議論すべきものとして、赤字原因の分析、事務局削減（30年度から1名減）、賞の廃止、また役員は公益事業を進めたいと考えているが一般会員は自分の役に立つことを求めておりギャップが生じている、なぜ収益事業が必要なのか、アイデアを求めるには説明資料が必要、公益目的に8千4百万円支出しなければならないのなら、一般社団法人を解散するほうが良いではないか、会費値上げの検討も慎重に、等々の意見が出ていたことについて議論が交わされました。

現状分析、収支見直しでは、平成29年6月の会員数は920名で現在65歳以上の会員が667名で大半が70歳で退会する想定をすると5年後は約700名で、会費収入は約900万円となり会員数の減少に伴う会費収入減が想定される、これは事業収益で会費収入を賄えていない状況が一般社団法人に移行する以前からの赤字構造であったことによります。平成28年度決算では建築士会館維持積立金を取り崩して賄ったものの赤字構造は変わっていないと言えます。5年後公益目的支出計画どおり完了する分析結果となりますが、組織変更の検討、会員増の検討として和歌山県では建築施工

管理技士も準会員として加わっていることも例としてありました。

第2回と第3回は、平成29年10月24日と11月16日に開催され、新規収益事業と既存事業の見直しの検討をしました、新規収益事業については、あらかじめ監督官庁に届けてある事業については公益目的事業支出とされ黒字に出来ないが、継続事業に似たような事業で収益を上げて、継続事業の赤字を補填することが重要となってくることの説明を事務局から受けました。

平成30年度予算編成方針での基本的事項としては積立金を取り崩すことなく運営する、公益目的支出額に見合った収益事業を行なって頂くこととし、予算編成基準として行政機関やその他団体からの補助金や助成金を活用した事業、市町村との連携事業など地域貢献に繋がる事業、公益目的支出計画に計上されている事業であっても経費節減に努める、会員増強につながる事業であっても費用対効果を精査のうえ行う、研修会では賛助会員から講師派遣や資金協力の活用を得る、可能な限り親睦事業は参加者負担で賄えるように、と言うような予算編成基準を各委員会、各支部に発表しました。

平成29年12月14日の理事会では特別委員会の中間報告として直ちに検討する事業としてホームページバナー広告募集の案内、自動販売機の設置案内を建設現場で設置してもらう為の紹介、警備保障会社への紹介、既存住宅状況調査技術者斡旋事業の報告と次年度以降検討する事業としては、歴史的建造物調査事業を進めるとして奈良市とは協定締結済であることの報告を行いました。

平成30年度においては、特別委員会を3回開催し、昨年度12月に策定した中間報告に対する具体的な取組状況について、協議・検討を行いました。平成30年8月28日、10月30日、12月4日の理事会にその取組状況を報告しましたが、今後も新規収益事業の拡大に取り組むと共に本会の運営を行う財政基盤を強くするため会費収入減の解消にも皆様の協力をお願いしなければならない時期がきていると思われます。

（記・副会長 立辻利治）



教育・事業委員会 景観デザイン賞部会 奈良県景観デザイン賞2018 受賞作品決定

教育事業委員会景観デザイン賞部会では表記の事業を行いました。

平成30年12月14日、15日の二日間で審査員6名（5組）の先生方による第一次審査（書類選考）において35の応募作品の中から厳正な審査を重ね、第一次選考作品として8点の作品が選出されました。平成31年2月4日に審査員の先生方は実際の作品に赴き、応募者のヒアリングも兼ねた第二次審査（現地選考）、並びに同じ日の夜に開催された第三次審査（最終選考）によって以下の作品が特に評価されましたので報告いたします。

○受賞作品

知事賞・リノベーション賞 小南家のリノベーション

- 施主 奈良・町家の芸術祭HANARART実行委員会
- 設計者 吉永 規夫（OFFICE for Environment Architecture）
- 施工者 N. P. O.



ランドスケープ賞 蛙股池の家

ランドスケープ賞 蛙股池の家

- 施主 玉城 良憲
- 設計者 小松建築設計事務所
- 施工者 株式会社じょぶ

活動賞 桜井本町地区における「景観まちづくり&空き町家利活用」プロジェクト

- 活動団体名 桜井本町通・周辺まちづくり協議会&都市再生推進法人桜井まちづくり株式会社



活動賞 桜井本町地区における「景観まちづくり&空き町家利活用」プロジェクト

建築賞 天川の山荘

- 施主 中山 雅博
- 設計者 関谷 昌人
- 施工者 ハンワコーポレーション

景観調和賞 朝日町のデンタルクリニック

- 施主 竹原 創平
- 設計者 株式会社一級建築士事務所
カワバタマサヒロ建築設計事務所 川畑 昌弘
- 施工者 株式会社アーキネット



建築賞 天川の山荘

○審査委員 ★は審査委員長（五十音順・敬称略）

- 辰己耕造・二郎 庭師・作庭家・庭プロデューサー
- 寺地洋之 建築家・大阪工業大学教授
- ★長坂 大 建築家・京都工芸繊維大学教授
- 森崎輝行 建築家
- 山本あつし 事業プロデューサー

（記・景観デザイン賞部会長 吉田泰造）



景観調和賞 朝日町のデンタルクリニック

審査委員長講評（抜粋）

知事賞となった「小南家のリノベーション」は、非常に小さなプロジェクトであるが、その「小ささ」が評価の対象でもあった。現地審査当日のインタビューによれば、この作品の総コストは15万円だそうだ。その厳密な査定はともかく、現地を訪れた審査委員にはわずかな手間と材料で作られていることがすぐにわかった。だが、その効果は目に見えて素晴らしい。まず、選択された空き家の位置がいい。吉野川が大きく蛇行するカーブのほぼ中央にあるため、デッキからの見晴らしが素晴らしい。次に、少し貼り出した床の下には盆踊りができるほどの土地があり、その位置関係もいい。こうしたスペースによって、多目的な活動の可能性が開かれる。最後に、空き家をぶち抜いたことで街路からの視界が新しく開かれた。家並みによって隔てられていた村のメインストリートは、吉野川へさらにその向こうの山々の風景へ、新たなつながりを持つことになった。この小さな板の間は、特別な行事にも利用できるし、日常的なコミュニティバスの待合所としても活用されるだろう。

景観デザインは、小さなものでもそれに見合った効果を得ることができる。また、ひとつは小さくても、多くの人々がそのアイデアを採用し、それらが時間的空間的に積み重ねられれば結果的に大きな効果を生むこともある。そのバランスの良さ、アイデアの魅力が重要なのである。

「蛙股池の家」は、池に面した建築のありかたについて優れた提案性がある。塀を家の周りにめぐらせるのではなく、建物周囲の地面を法面とすることで、水面とスムーズにつながる風景がつくられている。敷地を視覚的に開放することで、逆に一定のセキュリティも確保されているだろう。単純な長方形プランと開口部の扱い方もそうした方針にふさわしい内容となっている。ランドスケープ賞の受賞作としたが建築賞も受賞可能な作品であった。

「桜井市本町地区における「景観まちづくり&空き家利活用」プロジェクト」は、複数のコンバージョンプロジェクトを含む、優れた町の再生活動である。町家を改修したカフェ、銀行を改修したレストラン、明治の邸宅を改修した宿泊施設。老朽化したアーケードの撤去を軸に、行政も含めた多くの参加者を獲得し、後世に継承できる「活用される文化財」が実現されていることを評価したい。

「天川の山荘」は、コンクリートのチューブが大地に突き刺さる姿が印象的な作品である。前面道路から見ると、敷地がそのまま川に向かって突き出したように見えて、背後の緑の山と岩肌が道路に向き合うように感じられる。建物を消す手法を用いた建築作品である。

新しい住宅地の角地に建つ「朝日町のデンタルクリニック」は、大きな切妻屋根とコーナーの開口部が印象的である。周囲街路に、待合室の雰囲気や伝わるように設計されていることに好感が持てる。

（記・長坂 大）



知事賞・リノベーション賞 「小南家のリノベーション」



国立大学法人 奈良女子大学

生活環境科学系住環境学領域の教育研究の現状とビジョン

第9回 木材と住環境

1. はじめに

ヒトは古くから木材を生活の中で使ってきました。木は長い年月をかけて育ち、その一部は木材として使われます。わが国は国土の約7割は森林であり、世界的にみても森林率の高い国です。比較的温暖な気候区分に属するものの、国土が南北に細長いことから、それぞれの地域環境に適した樹種が自生し、樹種の特徴を活かした使い方がなされてきました。「適材適所」と言われているように、材の硬さや柔らかさ、強さ、腐りにくさや腐りやすさ、加工のしやすさやしにくさなどを経験的に得て、使い分けられてきました。木は比較的加工しやすいことから、原始的な道具を用いて伐採、加工することもでき、ヒトの暮らしに大変身近な材料でした。一方、木の成長には長い時間がかかるため、ヒトは木を長く使う、長く使えることを常に考え、木とともに生活していたと予想されます。

このように、木材とヒトの生活環境との関わりは深く、それは木材が身近な材料であったとともに、ヒトに適する、ヒトが好む特徴を持っているからかもしれません。そのような木材の魅力に迫りながら、木材と住環境について、これまでに行ってきた検討を紹介します。

2. 生物劣化を受ける木材を使う魅力

木材は有機物であり、腐朽菌などの菌類やシロアリなどの昆虫類などの生物の作用により劣化します。朽ちる、腐るという特徴を持ちます。不要になった時に腐り、自然に還ることは、木材の循環利用を考えると優位な性質ではありますが、木材を長く使っていく中では、腐ることは望まれません。では、木材は腐ると安全性に大きく影響する強度はどのように変化するのでしょうか。

そこで、木材の腐朽による曲げ強度の変化を検討する手法を考案し実験を行いました¹⁾。その結果、素材の耐朽性が腐朽による曲げ強度の変化に大きく影響することが明らかとなりました。樹種により素材の耐朽性が異なるため、構造材などには耐朽性の高い樹種を選択する、または、耐朽性を高める処理を施すことが重要です。木材の強度性能とともに耐朽性を考慮した樹種選択が行われると、木材を構造材としても安心して使っていくことができます。

木材を腐らせる木材腐朽菌が生育するためには、4つの条件が必要です。適当な温度、湿気（水分）、酸素、養分です。木材が使われている環境をみると、適当な温度、酸素、養分を除去することは難しく、あえて調整、制御できるのは水分であると言えます。木材と水分の関係は永遠のテーマであるとも思われますが、良い関係を保っていくことが大切です。

一例として、木造住宅の床下および土間付近の温湿度環境を把握し、湿性カビの生育範囲との比較から生物劣化の可能性を探りました²⁾。その結果、通り土間のある伝統的木造住宅の土間付近において、梅雨から夏期、初秋期にかけて、湿性カビが発育しやすい環境となりやすいことがわかりました。土間からの湿気のアガりが大きく影響していると考えられ、この期間に、部材付近の環境を整えて湿気を逃がしていくことが、木部の生物劣化を抑制するうえで重要です。

3. 木造住宅が使い続けられる魅力

築後100年を過ぎても、使い続けられている木造住宅は沢山あり、奈良県内にも多くみられます。どのようにして現在に至っているのでしょうか。居住者の方へのヒアリングを通じて、住み手が行ってきた維持管理を明らかにし、変わりゆく生活スタイルに合わせた管理様式の提案を検討しています。県内の伝統的な木造住宅が残る地域で行った調査³⁾より、住み手が継続的に日頃の手入れを行い、建物が長く使えるように心がけて補修・改修を行い、部材の劣化を遅らせ、居住の継続性が保たれていました。日常生活の一部として、日頃の手入れが行われている様子が窺えました。一方、家族構成の変化や居住者の高齢化、また、町並みや地域への思いなどにより、住宅の維持管理に対する居住者の意識も変化してきています。住まいに対して日頃から手入れにかかわり、管理の必要性や継続の重要性を認識していくことが求められます。また、自助のみならず、地域内での共助、地域外の人を含めた共助、さらに、地域の社会的資産としての町並みであるとともに、人が生活する場としての住宅の公助のあり方を検討していく必要があります。

また、木造住宅の維持管理の主体は住み手や所有者ですが、大工や工務店など木造住宅に関わる専門家の果たす役割も大きいと言えます。そこで、伝統的木造住宅の維持管理における工務店の役割について、奈良県内の工務店を対象とした調査を行いました⁴⁾。沢山の意見が記述された調査用紙が返信され、専門家の熱い思いを知ることができました。伝統的な木造住宅を維持していくためには、技術者の養成とともに材料確保、補助金制度のあり方、見積りなどの難しさへの考慮、住民の意識向上とそれを支える地域支援や教育の充実が求められていました。今後、住宅の安全性や耐久性などの物理的な側面だけではなく、居住者にとって住み心地の良い、現代の生活スタイルに合った住まい方を取り入れながら、居住者と工務店による協同や連携、さらに地域住民も含めた共助が必要です。



藤平眞紀子 奈良女子大学生生活環境科学系准教授、学術博士

略歴：千葉市生まれ。奈良女子大学家政学部住居学科、奈良女子大学大学院家政学研究科住環境学専攻、奈良女子大学大学院人間文化研究科生活環境学専攻修了。非常勤講師、講師を経て2012年より現職。専門分野は住居管理学。住宅の耐久性および耐久性向上について、維持管理面および材料面から研究。著書に「ずっと、この家で暮らす。住まいの管理がつむぐ美しい生活。」(共著、圓津喜屋)など。社会活動として、奈良県森林技術研究評議会、奈良県産業振興センター研究開発評価委員会、奈良県入札監視委員会、奈良県大規模小売店舗立地審議会、大阪府森林審議会等の委員を務める。

賞罰：2018年日本家政学会賞ほか。

4. 木材はなんとなく良いという魅力

木材にも色々種類があり、それぞれに見た目や香り、弾力性、強度や耐朽性が異なります。国産材や地域産材の有効利用を考えていく中で、吉野材を対象とすることが多くあります。奈良県吉野地方は、古くから林業を産業としており、長伐期、密植、多間伐により、良質な木材を生産してきました。吉野材、中でもスギ材は、樽や桶材として使われ始め、節のない、まっすぐな、年輪の込んだ、美しい艶(光沢)をもつ、強度性能に優れた材として、建築用材としても高い評価を得て使われてきました。一方、住宅工法の多様化、輸入材の増加、生活スタイルの変化などにより、吉野材の需要は著しく減少してきています。吉野ブランドといわれ、高級優良品として高く評価されてきましたが、現在、消費者が吉野材をどのように認識し、評価しているのか不明な点が多いと感じました。そこで、吉野スギ材および吉野ヒノキ材に対する印象⁵⁾や消費者の木材に対する嗜好を把握することにより、吉野材の魅力や価値を改めて認識し、吉野材を用いた木製品の商品開発をはじめとする吉野材市場の活性化へつながる提案を考察しています。

一例として、吉野材をヒトが身近に接する内装材やフローリング材として使用することを想定して、吉野スギ、吉野ヒノキおよび広葉樹(ハードメイプル)フローリング材を対象として(表)、足触り、視覚、歩行による感覚評価を行いました(写真)。被験者は本学の学生としました。試料を見ないで、足を置いた瞬間に、どのように感じるのでしょうか。スギ、ヒノキは「やわらかい」、「あたたかい」と感じられ、これが「自然な」感じにつながっていると思われます。足の裏の感覚だけでありますが、一瞬にして、スギのあたたかさが感じられていました(図1)。一方、従来型のフローリングでは、かたい、つめたい、つつつした、という評価が目立ちました。歩いてみると、やはり、スギ、ヒノキは「あたたかい」、そして「乾いた」つまり、べたべたしない「自然な」感じでした(図2)。なお、「歩きやすい」では大きな差はみられず、ヒノキの評価が若干優良でした。

また、高齢者福祉施設や教育施設における内装の木質化についても検討を進めています。保健室の内装の木質化を試み、使用状況や木部の変化などを継続的に捉え、長期間適切な状態で使用していくための管理のあり方について検討しています⁶⁾。さらに、昨年より、木材の視覚や触覚による感覚評価において、生理指標を取り入れ検討を深めています。感覚的に良好に捉えられている木質環境をよりわかりやすく示し、生活環境に適切に木材を取り入れ、森林資源の循環利用にもつなげていきたいと考えています。



写真
実験風景

表 供試材料

試料記号	樹種	仕様	塗装の有無	厚さ(mm)	色・色味
C	ハードメイプル	従来型1種フローリング	あり(ウレタン系)	12	白・薄い
D	ハードメイプル	無垢フローリング	あり(オイル系)	15	白・薄い
F	ヒノキ(吉野ヒノキ)	無垢フローリング	あり(オイル系)	15	節少(上小節)
G	スギ(吉野スギ)	無垢フローリング	あり(オイル系)	15	節少

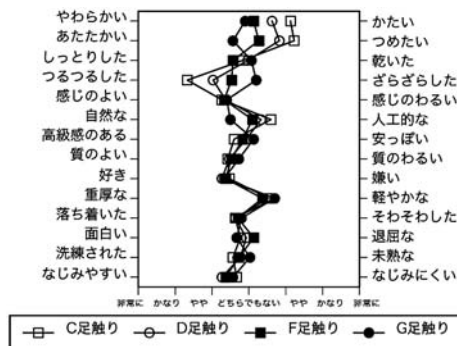


図1 足触りによる評価

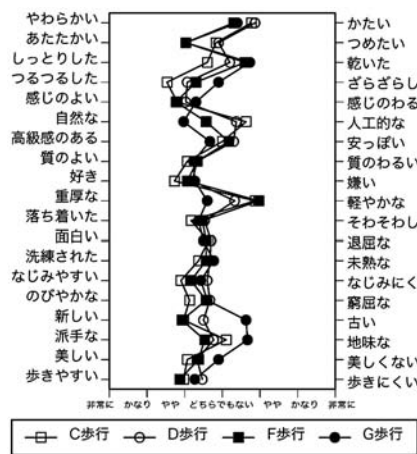


図2 歩行による評価

- 1) 藤平眞紀子ほか3名：枠組壁工法構造用木材の耐朽性と曲げ強度性能の変化，日本木材学会誌，1997，Vol. 43，No.7，589-594.
- 2) 藤平眞紀子：木造住宅における床下および土間付近の温湿度環境からみた生物劣化の可能性の検討，日本木材保存協会第31回年次大会，2016.
- 3) 藤平眞紀子ほか2名：伝統的木造住宅における維持管理の変遷と今後の継承 ―ヒアリング調査による維持管理の実態把握と今後の課題―，日本家政学会誌，2015，66(6)，272-283.
- 4) 藤平眞紀子：伝統的木造住宅の維持管理における工務店による共助に関する考察 ―工務店を対象としたアンケート調査より―，日本建築学会誌，2017，82(731)，191-199.
- 5) 藤平眞紀子ほか2名：吉野スギ材の印象評価と内装材としての適性評価，日本材料学会誌，2015，64(5)，345-349.
- 6) 藤平眞紀子：小学校における生活空間としての保健室のあり方 ―改修事例からの考察―，日本家政学会誌，2017，68(6)，272-284.



郡山支部

歴史的建造物を活かしたまちづくり2019

パネル展 in 町家物語館／郡山城見学＆町歩き／フォーラム

郡山支部では箱本十三町を中心として、これまでに、歴史的建造物（町家等）の分布調査や未来に残したい町家については所有者への聞き取りや建物の実測を行ってきました（平成22～24年度）。歴史的建造物は昭和56年から約半数が取り壊され、その後も徐々に失われつつあります。

昨年度は洞泉寺町で解体が計画されている元遊郭について、せめて記録だけでも残したいとの思いから、建物の実測調査を行いました。こうした状況は、歴史ある郡山城下町の町並みの将来に大きく影響することから、郡山支部では市長に『大和郡山市内における歴史的建造物を活かしたまちづくりに関する要望書』を提出するとともに、今回のフォーラムを開催しました。



郡山城の石垣の前にて山川氏の説明を聞く



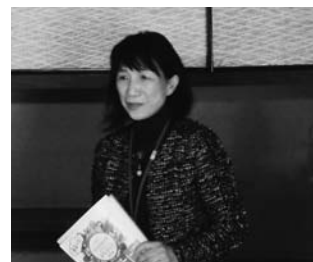
旧奥野家住宅（箱本館紺屋）の見学

平城京十条大路が話題を集めた下三橋遺跡などの調査を担当された専門家の山川氏の説明を聞いていると、当時の郡山の町の様子がいきいきと蘇るようでした。

■フォーラム

午後からは、「桜井まちづくり株式会社」代表取締役社長の岡本健氏を招き、桜井本町通りと周辺のまちづくりについてご講演いただきました。岡本氏の話の間こうと町家物語館1階会場には34名が集まり、2月の寒い日でしたが会場は熱気に包まれていました。

大和郡山市の上田市長も駆けつけてくださり、「ゲニウス・ロキ（土地柄）を大切にしたいまちづくり」に向けて、次年度からは公民連携のまちづくりの係も新設していくなど、行政の嬉しい動きにも触れることができました。



大和郡山市上田市長と徳本支部長

まろっと! まちごと
フォーラムバージョン

こおりやま
大和郡山

歴史的建造物
を活かした
まちづくり
2019

2/2 SAT ~ 10 AM 9:00-17:00 パネル展 in 町家物語館	2/3 SUN 10:00-12:30 郡山城見学＆町歩き	2/3 SUN 13:30-16:30 フォーラム
--	-------------------------------------	---------------------------------

建 築 郡山支部では箱本十三町を中心として、これまでに、歴史的建造物（町家等）の分布調査や、未来に残したい町家については所有者への聞き取りや建物の実測を行ってきました（平成22～24年度）。歴史的建造物は昭和56年から約半数が取り壊され、その後も徐々に失われつつあります。昨年度は洞泉寺町で解体が計画されている元遊郭について、せめて記録だけでも残したいとの思いから、建物の実測調査を行いました。こうした状況は、歴史ある郡山城下町の町並みの将来に大きく影響することから、郡山支部では市長に『大和郡山市内における歴史的建造物を活かしたまちづくりに関する要望書』を提出するとともに、今回のフォーラムを開催することになりました。このフォーラムでは、参加者がそれぞれの立場で歴史的建造物の保存と活用、まちづくりの未来について語り合います。

▼ 問合せはこちら
TEL.090-2278-9802 (事務局 伝言)

主催 一般社団法人 奈良県建築士会郡山支部
後援 大和郡山市

イベントのチラシ

■郡山城見学と町歩き（郡山らしさを知ろう！）

考古学、特に中世石造物に造詣が深い大和郡山市教育委員会の山川均氏の解説付きの見学会。総勢29名の見学者に参加いただき、三の丸会館前からほほあて門→柳御門→くろがね御門→追手門→旧奈良県立図書館（城址会館）→柳沢文庫・極楽橋→天守台→竹林橋→本家菊屋前→旧奥野家住宅（箱本館紺屋）→旧川本家住宅（町家物語館）、の順路で回りました。



思いのこもった岡本氏の講演



岡本氏の講演に聞き入る参加者



Buzz タイムには近くの参加者同士で話し合い



町家物語館にてパネル展も開催

桜井まちづくり会社ができるまでのプロセスは大変興味深いものでした。イベントを通じての「つながり形成」、いろんな立場の人が協働する官民産学共同プロジェクトでの「垣根を取り払う工夫」「イメージ合わせ」、まちづくりに向けた「グランドプラン策定」。そして、まちづくり会社が必要となり発足。推進のための巻き込みは「地域内フロー収支の拡大」「雇用拡大」「多様な人との接点」が大切。これらは、今後大和郡山の私どもが挑戦していくべき未来への道筋ではないかと感じました。

また、一方的に話を聞くだけでなく「Buzzタイム」という参加者同士と一緒に質問を考える時間を設けることで場を温める工夫もあり、多くの質問が飛び出しました。

意見交換では町家を残し活用していきたいというたくさんの方の声とともに、安全性や快適性も必要との現実的な意見も出るなど、とても紙面では書ききれない貴重な場となりました。また、登録有形文化財「葉本家住宅」の紹介も所有者からあり、こちらからは保存・活用のための建築士が役にたてる制度や条例整備についての紹介も行いました。そして、フォーラムの最後では、今回をきっかけに、引き続きこのような場をもっていきたい、との建築士会郡山支部の考えを表明し、フォーラムを終えました。

(記・郡山支部 折目貴司)



フォーラムの記録、密度の高い時間の証



青年委員会 平成30年建築士試験 合格祝賀会 開催

主催：一般社団法人 奈良建築士会 青年委員会
開催日時：2019年2月17日(日)
時間：12:00~17:00
見学先：奈良町にぎわいの家、奈良ホテル、
名勝 旧大乘寺庭園

昨年8月に開催した一級建築士課題試験類似施設見学会に続き、H31年度建築士試験に合格された方々にご参加頂きました。

合格者と青年委員会メンバーは年も近いこともあり、製図試験での苦労話をはじめ、普段の仕事や、実務での悩み事など、多岐にわたる会話の中で「奈良県建築士会」のPRできたのではないかと思います。

また、夏から始まった通年事業の中で、現青年委員同士が協力し合い設営準備できた事でより仲間意識が生まれたと思います。

今後も同じ建築業界で働く仲間を増やす中で、奈良県建築士会に入会して頂けるよう活動できればと思います。



奈良町にぎわいの家 1917年築造（築100年を迎えた町屋）

住まいの知恵と伝統の技を昔ながらの技法を見学することで、現在の住まいづくりとの違う概念を学ぶ事を目的としました。



名勝 旧大乘院庭園（名勝大乘院庭園文化館）

現在は、奈良ホテルの南側に位置しており、室町時代の徳政一揆で一度は荒廃しましたが、その後室町時代に活躍した作庭の名手善阿弥によって復興改造されています。

又、明治初頭まで南都随一の名園と称えられていました。

（記・青年委員会 南 喬）



総務・企画委員会 平成31年新年大交歓会

主催：一般社団法人 奈良建築士会

平成31年1月18日（金）橿原観光ホテルにて、平成31年新年大交歓会を開催いたしました。会員をはじめ、行政関係者、建築関係団体、参与会、賛助会員様が参加されました。

米村会長の挨拶では、昨年度は自然災害が多くあり防災への取り組みが必要であること。また、人口の減少や住宅の老朽化により、空き家がニーズの変化で社会問題化しており、奈良県建築士会では、空き家対策部会を立ち上げ、建築士対象の空き家活用研修会を開き、自治体と協定を結び、問題解決に努力していく事が再度確認されました。



続いて、来賓の奈良県まちづくり推進局の増田哲司局長様より祝辞をいただきました。

また、昨年第61回日本建築士会連合会さいたま大会において、橿原支部の岡田則夫様と宇陀支部の樫岡雅則様が連合会長表彰を受賞された紹介がありました。



祝宴のご発声は、奈良県建築士事務所協会の植村吉延会長でした。尚、途中で賛助会員様のクマリフト株式会社様、株式会社総合資格奈良支店様、YKK AP株式会社様、報国エンジニアリング株式会社様の展示紹介がありました。中締めといたしまして本会の立辻副会長に挨拶をいただきました。司会は、橿原支部の竹上由美様で新年に相応しいスピーチで進行していただきました。



（記・総務・企画委員会委員長 藤浪 通）



お知らせ

Information

●ホームページ・ヘッドライン（予定含む）

桜井12月研修会

●おめでとうございます。

平成30年一級建築士試験 合格者一覧（敬称省略）

36名（奈良県）

菊池 隆浩	渡邊 武	宇土 拓海	片岡 夏海
山田 喬之	田辺加奈子	橋本侑香里	田中 陽之
藤岡 大典	今谷ひかる	石井あゆみ	鈴木 翔大
伊藤理慧子	川中 裕平	萩原 可奈	山田 眞生
井上栄理香	福田 明彦	金山 純	村戸 達
寺西みはる	藪田 智裕	木下 暁子	西口 雅史
高尾 篤	佐藤 誠也	松崎 信治	池内 健太
水杉 弥生	宮本 大樹	小柳 祐也	藤田 尚大
豊田健太郎	中村 雅俊	木村 吉成	田窪慎一郎

平成30年度二級建築士試験 62名（奈良県）

平成30年度木造建築士試験 5名（奈良県）

●2018年第9回高校生の「建築甲子園」で、朱雀高等学校が奨励賞受賞

（公社）日本建築士会連合会主催の2018年第9回高校生の「建築甲子園」が「地域のくらしーリノベーションの可能性」をテーマに開催されました。本県では、県内選考を経て本選に送付された奈良県立奈良朱雀高等学校建築工学科の作品が審査の結果、奨励賞を受賞されました。

応募作品は、「ラフォーレ柳生の里～緑と食と これからと～」で、廃校になった奈良市立柳生中学校を、緑と食をテーマとした教育体験施設としてリノベーションするものでした。奈良県立奈良朱雀高等学校建築工学科の松山義広先生が監督、佃葵詩君、出口太一君、平重希君、藤本琉君の選手4名は3年生です。

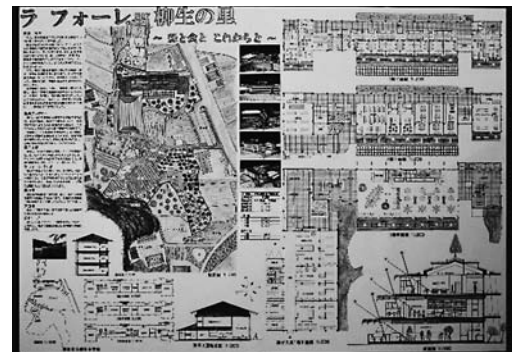
表彰状授与のため米村会長が1月25日（金）に奈良朱雀高校を訪問して、福井哲夫副校長臨席のなか、監督と選手に表彰状と副賞を贈呈し歓談しました。



選手からは、「柳生中学校が興東館中学校と合併し、廃校となり校舎が使われなくなりました。私たちは、自然豊かで文化的遺産のあるこの柳生の里を発展させたいと思い、この校舎の活用を考えました。模型を初めて作りましたが、3ヶ月かかり精度を高めるのに苦労しました。」と説明を受けました。また、

松山監督からは、「それぞれ、大学等への進学も決まりました。」とのことでした。

会長からは「大学等に入って建築の勉強を深めると思いますが、これからは、既存の建築物をどのように活かすかが大事です。頑張ってください。」とエールを送りました。



●平成31年度通常総会の日程（予定）

日 時：平成31年5月21日（火）

16：30頃～（予定）

場 所：ホテルリガーレ春日野

議 事：平成30年度事業報告及び決算承認

平成31年度事業計画及び予算承認

懇 親 会：18：40頃～（予定）

※正会員の皆様は、後日送付いたします通常総会の案内に付いている出欠表を提出いただきますようお願いいたします。なお、残念ながら欠席される場合には、必ず委任状も記載したうえでご返送頂きますようお願いいたします。

●平成31年度一級・二級・木造建築士定期講習についての

お知らせ【第1期】【第2期】

平成31年度の定期講習は（一社）奈良県建築士事務所協会が受付を行います。

【第1期】

講習会日時：平成31年6月12日（水）

場 所：ホテルリガーレ春日野（奈良市）

定 員：60名（申込先着順）

受 付 期 間：4月8日～4月26日

【第2期】

講習会日時：平成31年8月28日（水）

場 所：奈良県産業会館（大和高田市）

定 員：80名（申込先着順）

受 付 期 間：6月10日～6月28日

※平成31年度の第3期以降の定期講習は日程、開催場所等の詳細が決定次第、随時会報誌等でお知らせいたします。

※詳しくは TEL 0742-34-8850までお問い合わせください。

●訃報 松本龍男氏 1月

ご冥福をお祈りいたします。

新入会員のご紹介 『よろしく』

氏 名	支部	勤務先〒	勤 務 先 住 所	勤 務 先
橋 田 繁 文	吉野	639-3111	奈良県吉野郡吉野町上市109番地の1	はしだ1級建築士事務所

編集後記

今年は暖冬で例年より雪も降らず、1月の中頃になって初めて5cm程の積雪がありました。

今年も又、自然災害が起これそうで危惧しています。

私事ですが、60歳を過ぎて、自分の体の衰えを実感しています。昔のように思うように体が動かず、もどかしく思っております。

私の周りの知人が、入院したとか、亡くなったなどの知らせにショックを受けて、自分もあと何年生きられるのか、いつまで健康でいられるのかと考えてしまいます。友達との会話にも、健康問題の話ばかりでてしまいます。

私には、定年というものがないのでマイペースで、仕事をし

ていますが、何もすることがないと手持無沙汰で落ち着かないので、とりあえず基礎年金をいただくまでは働こうと思っています。

最近、身体の衰えを止めるためにストレッチや柔軟体操をして、筋肉を鍛えようとしかけています。毎日少しずつ続けていると、意欲がわいてきて、もう少し頑張ってみようかなと思えます。

定年を超えた我々の年代の方々、今や平均寿命80歳～87歳。後の世代の為に、又残りの人生を楽しく過ごすためにもうひとがんばりしましょう。

(小松原寛俊)

Calendar

2019年3月

12(火) 改正業務報酬基準説明会開催

19(火) 理事会

20(水) 監理技術者講習

21(木) 女性委員会和室部会見学会

Calendar

2019年4月

23(火) 理事会

24(水) 監理技術者講習

29(月) ☒ 昭和の日

30(火) ☒ 退位の日

士會奈良 通巻624号

平成31年3月1日(発行隔月1回1日発行)

発行所 一般社団法人 奈良県建築士会
〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館
電話 0742-30-3111 FAX 0742-33-4333
<http://nara-kenchikushikai.or.jp/>
info@nara-kenchikushikai.or.jp

発行責任者 米村博昭

編集 (一社)奈良県建築士会 情報・広報委員会

印刷所 株式会社 明新社

奈良県のストレート合格者の9割以上は総合資格学院の当年度受講生！

平成30年 1級建築士 学科・設計製図試験

奈良県
合格者占有率

No.1

奈良県 ストレート合格者占有率

92.9%

奈良県ストレート合格者14名中、当学院当年度受講生13名

平成30年 1級建築士 設計製図試験

奈良県 合格者占有率

69.4%

奈良県合格者36名中、当学院当年度受講生25名

※総合資格学院の合格実績には、模範試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。＜平成30年12月20日現在＞

開講
迫る!!

2019
平成31年度

1級・2級建築士
学科対策講座

受講生
募集中!!

お申込みは
お早め!

1級・2級 建築士
1級・2級
建築施工管理技士

構造設計
1級建築士

設備設計
1級建築士

建築設備士

インテリア
コーディネーター



総合資格学院

学院長 岸 隆司



総合資格

検索

Facebook「総合資格 市」で検索

スクールサイト

www.shikaku.co.jp

コーポレートサイト

www.sogoshikaku.co.jp

奈良校 TEL.0742-30-1511

奈良県奈良市西大寺栄町3-27 泉谷ビル 4F

近鉄大和西大寺駅北口から徒歩5分